

2022年度 アナン学園高等学校 学校評価 (2021年度の教育活動に対する学校評価)

1 めざす学校像

校訓に基づいた学校経営の実践と地域から信頼される学校づくりをめざす

- 1) 校訓を基に教育をおこなう
 - ① 感謝の気持ちを忘れず
 - ② 相手の立場に立って考えられる
 - ③ 何事にも礼儀を守り
 - ④ 社会に貢献する人間の育成
- 2) 新しい学校づくりに力を注ぐ
 - ① 普通科(学力の向上)の充実をはかる
 - ② 看護科(国家試験合格率の向上)の充実をはかる
 - ③ 調理科(校外実習・インターンシップ・資格取得)の充実をはかる
 - ④ ICT教育の充実をはかる(普通科・看護科・調理科)

2 中期的目標

- 1 確かな(学力向上への)取り組み
 - 1) 進路総合コースの充実
 - ① 基礎学力の向上
 - ② 特別進学クラスの充実
 - ③ 希望進路への十分な取り組み
 - 2) 教員の指導力向上の取り組み
 - ① 校内・校外研修の取り組み
 - ② 初任者への公開授業の取り組み
 - ③ リーダーの養成
 - 3) 自学自習の習慣化に向けての取り組み
 - ① 平素の授業での指導の徹底
 - ② 集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる
 - ③ 授業のみならず課題学習への重点的な取り組み
 - ④ 実力テストや資格検定の実施
 - 4) 進路指導の充実
 - ① 推薦・AO・センター試験等に向けての取り組み
 - ② 就職(大手企業)指導の充実
 - ③ 企業見学や企業が求める人材の育成
 - ④ 受験対策及び国家試験対策
 - ⑤ 調理科のインターンシップや校外実習の充実
 - 5) ICT教育の充実
 - ① 校内委員会の活動
 - ② 設備面の充実
- 2 豊かな心を育むための取り組み
 - ① キャリア教育と人権教育の取り組み(進路保障)
 - ② 普通科在籍者への取り組み(受験及び就職対策)
 - ③ 看護科の臨地実習の充実
 - ④ 調理科の校外実習の取組み
- 3 学校の組織力向上の取り組み
 - 1) 学校自己診断の実施
 - 2) 保護者との連携
 - 3) 地域連携
 - 4) 広報活動の充実

4 教職員の資質向上をめざした体制づくり

- 1) 授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み
- 2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み
- 3) 学科間・教員間の連携

3 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

2022年度 学校評価について

2012年度より本校では、保護者や生徒からの学校評価や教職員による学校評価を実施しています。

2021年度の教育活動に対するアンケートは2022年1・2月に保護者・生徒・教員に対して行いました。

アンケートは各項目に対し、[A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまり当てはまらない D：まったくあてはまらない E：わからない]の5段階で評価し、A+Bを肯定的評価、C+Dを否定的評価としました。

下記の表は、保護者・生徒・教員のアンケート結果を(50%以上の肯定的、否定的評価)についてまとめたものです。

アンケート結果を謙虚に受け止め早々に取り組めるところは敏速に取り組むたいと考えています。保護者に対して、学校経営に関する情報については、文章配付や学校ホームページを活用し提供することに努めていきます。

最後に、この場をお借りして、アンケートにご協力頂きました方々にお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

【自己評価アンケートの結果と分析及び学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2022年7月]	学校評価委員会から
<p>生徒からの回答 (50%以上の肯定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none">・学校に行くのが楽しい。(63%)・自分の学級は楽しい。(72%)・この学校には、他の学校にない特色がある。(55%)・先生は生徒の意見を聞いてくれる。(61%)・授業はわかりやすく楽しい。(52%)・授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(63%)・先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。(58%)・評価の仕方や基準について、事前に示されている。(71%)・学習の評価については、納得できる。(64%)・悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(51%)・将来の進路や生き方について考える機会がある。(63%)・学校は進路についての情報を知らせてくれる。(60%)・学校は奨学金制度についての情報を知らせてくれる。(51%)・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(55%)・人権について学ぶ機会がある。(63%)・授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。(63%)・成績などの内容についてプライバシーが守られている。(57%)	<p>※生徒たちは、学校に来ることが楽しく、自分の学級が楽しい思っている。その要因は、クラスによき友人がいることや、先生と十分なコミュニケーションが図られていることがある。</p> <p>※「授業がわかりやすく楽しい」の肯定的評価が52%なので、もっと高くなるよう、授業の工夫が必要だ。</p> <p>※「評価」についての肯定的評価が昨年度より向上しているのので、生徒に十分な説明ができていたことが伺える。</p> <p>※将来や、進路についても真剣に考えている様子が見える。</p> <p>※命の大切さや人権について学んでいることを意識している様子が見える。</p> <p>※各教室に設置したプロジェクターやWi-Fi設備を活用した授業が行われている。</p>
<p>生徒からの回答 (50%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動に積極的に取り組んでいる。(51%)	<p>※部活動に積極的に取り組めるよう、生徒への興味付けや環境面の整備が必要である。</p>

保護者からの回答

(50%以上の肯定的評価)

- ・子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。(73%)
- ・子どもは、自分の学級が楽しいといっている。(69%)
- ・先生は子どもを理解している。(71%)
- ・この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。(69%)
- ・学校は教育方針をわかりやすく伝えている。(60%)
- ・学校は保護者の願いにこたえている。(60%)
- ・子供は、授業が楽しくわかりやすいと言っている。(50%)
- ・学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。(69%)
- ・通知表は、子どもの学力や達成度がわかりやすく表すように工夫されている。(78%)
- ・先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。(70%)
- ・学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。(72%)
- ・先生は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる。(56%)
- ・学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。(55%)
- ・子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(70%)
- ・学校の生徒指導の方針は、保護者に示されている。(60%)
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる。(52%)
- ・学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(78%)
- ・進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。(60%)
- ・学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。(60%)
- ・学校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った子どもを育てようとしている。(52%)
- ・学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。(53%)
- ・子どもは、学校に友達がいるといっている。(85%)
- ・学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。(56%)
- ・地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に知らされている。(71%)
- ・学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。(61%)
- ・学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。(68%)
- ・学校では子どもに関する個人情報を守られている。(70%)
- ・学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(60%)

保護者からの回答

(50%以上の否定的評価)

なし

※子供は学校へ楽しく登校し自分の学級が楽しいと感じている。これは、生徒からの回答とも一致している。

※看護科や調理科など特色ある学科が認知されていることが伺える。

※数字からは学校と保護者との意思の疎通が図られ、教員の子供への指導法や評価に対しても理解していただいていることが伺えるが、個別の意見では不満もあった。教育方針や、生徒の学校での様子を充分伝えなければならない。

※進路指導等、学校の教育への取組みにも理解していただいていることが伺える。

※生徒への人権教育に取り組んでいることが保護者にも伝わっている。

※文書・事務連絡は適切であるとの評価だが、個別の意見にも多くある電子媒体での連絡も2021年度より始まった。

※今後もより良い教育が行えるよう保護者や生徒の意見も検討し、努力していくことが必要だ。

※50%以上の否定的評価はなかったが、個別の意見では施設・設備面は満足されていない。意見の中にも施設面の充実を求めるものが多くあった。不評だった空調設備については、更新することができた。

<p>教員からの回答 (50%以上の肯定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。(52%) ・教職員は生徒の意見をよく聞いている。(56%) ・各教科において、教材の精選・工夫を行っている。(70%) ・生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。(52%) ・評価の在り方について話し合う機会がある。(59%) ・様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。(59%) ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(52%) ・この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。(52%) ・人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。(63%) ・在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。(52%) ・各教科の備品や教材教具が活用されている。(52%) ・コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。(67%) ・指導要録の記入が年度内に適正に行われている。(56%) ・個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。(59%) ・情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。(70%) 	<p>*各教科では、学習指導計画について話し合い、教材の精選や工夫が行われている。</p> <p>※問題行動防止に適切に取り組んでいる。</p> <p>※教育相談体制が整備されている。</p> <p>※キャリア教育や人権教育が行われている。</p> <p>※ICT機器も授業で活かされていることが伺われる。</p> <p>※生徒の個人情報や公文書は適切に管理されている。</p> <p>※ホームページが活用されている。</p>
<p>教員からの回答 (50%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(59%) ・各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。(52%) ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(67%) ・この学校では少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている。(56%) ・指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある。(74%) ・この学校では、創意工夫を生かした総合的な学習の時間を実施している。(70%) ・生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。(59%) ・グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。(67%) ・校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある。(59%) ・この学校は、奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している。(56%) ・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、 	<p>※教職員間の教育活動におけるコミュニケーションをもっと積極的に行われるよう環境作りが必要だ。</p> <p>※他教科の教師と指導内容について話し合う機会を作る必要がある。</p> <p>※生徒の学力差が大きく、個々の生徒にあった授業ができていない部分がある。思考力を重視した学習活動を行えるよう、学習形態の工夫・改善も含め教師全体で考えていかなければならない。</p>

<p>学校全体で取り組んでいる。(63%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。(63%) ・学校として、部活動の活性化について工夫している。(81%) ・教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。(63%) ・教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。(78%) ・学校として、在籍している外国から来た生徒に対し支援する体制がある。(70%) ・障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。(56%) ・環境・国際理解・福祉ボランティアなど現代的教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。(74%) ・校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。(56%) ・学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。(63%) ・学校運営に教職員の意見が反映されている。(78%) ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。(81%) ・各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。(85%) ・職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。(70%) ・会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている。(63%) ・教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。(59%) ・この学校では、生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。(70%) ・この学校では、清掃がいきとどいている。(83%) ・施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。(70%) ・施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。(56%) ・校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。(56%) ・校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。(52%) ・初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。(78%) ・学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。(85%) ・教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(78%) ・この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。(63%) ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。(74%) ・教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(67%) ・保護者や地域の人々と接する機会を設けている。(63%) 	<p>※新型コロナ感染防止のため、生徒会活動やクラブ活動など、生徒の自主的な活動が消極的になっている。今後は出来る範囲で活発な活動にしなければならない。文化祭、送別会はコロナ対策のためICT機器を用いて遠隔で行えた。</p> <p>※学校運営に教職員の意見も反映される環境作りが必要である。学校側と意思統一した共通理解のもと、生徒と接し、きめ細やかな指導に専念できる環境作りが必要である。</p> <p>※研究授業や研修の報告会を行い、教師間で授業方法や指導法について検討していく機会を作らなければならない。</p> <p>※教職員間の意思の疎通を図る場を設け、いろんな意見を教育活動に活かすことができるようにしなければならない。</p> <p>※施設・設備も含め、教育活動にふさわしい教育環境の整備が必要である。</p> <p>※生徒が清掃をきっちり行うための方法を、教師間で今一度考えなければならない。</p> <p>※校内研修は、日々の教育活動に役立つ研修が必要だ。</p> <p>※新任研修を充実させ、教員を育成させる体制が必要である。研修や、研究に参加した教職員が校内で他の教職員に伝える場が必要である。</p>
---	---

4 本年度の取組内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組内容の自己評価
取 り 組 み ①	確 か な （ 学 力 向 上 へ の ） 取 り 組 み	1) 進路総合コースの充実 ①基礎学力の向上 ②特別進学クラスの取り組み ③希望進路への十分な取り組み 2) 教員の指導力向上の取組 ①校内・校外研修の取組 ②初任者への公開授業の取組 ③リーダーの養成 3) 自学自習の習慣化に向けての取組 ①平素の授業での指導の徹底	1) ①基礎学力は向上したか。 ②生徒の進学への意識づけはできたか。 ③希望進路へ進むための取り組みはできたか。 2) ①研修は実施されたか。 ②初任者への公開授業は実施されたか。 ③リーダーの養成は出来たか。 3) ①平素の授業で指導の徹底はできたか。	1) ①朝礼後の「朝の学習」はコロナ対策の健康チェックのため行われなかった。調査前の「わかるまで勉強会」等で基礎学力の向上を図った。一定の効果はあったが、今後は授業の中での基礎学力の向上を引き続き考えていかなければならない。 ②長期休暇中の補習や授業内、進路ガイダンス等で意識づけは行った。大学見学等校外での意識づけも行った。 ③進路ガイダンス、学校説明会を定期的に行い取り組んだ。今年度は新型コロナウイルス対策のため、保護者対象の説明会はなかったが、今後は入学後の早い時期から保護者と一緒に考えられる取り組みを考えていかなければならない。 2) ①新型コロナウイルス対策のため、多くの研修が中止になった。校内研修は人権研修の講演会を行った。 ②公開授業は行っていない。例年の課題であるが、授業法や指導方法の強化のためにも公開授業は行わなければならない。校長による授業参観は行われた。 ③それぞれの学科でリーダーは育てている。 3) ①自学自習の習慣化をめざし、平素の授業で指導は行った。効果は表れているが、今後も継続的な指導が必要。

	<p>②集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる。</p> <p>③授業のみならず課題学習への重点的な取り組み。</p> <p>④実力テストや資格検定の実施</p> <p>4) 進路指導の充実 ①推薦・AO・センター試験等に向けての取組</p> <p>②就職(大手企業)指導の充実</p> <p>③受験対策・国家試験対策</p> <p>5) ICT教育の充実 ①校内委員会の活動</p> <p>②設備面の充実</p>	<p>②集中力を身に着けさせられたか。</p> <p>③課題学習の徹底は出来たか。</p> <p>④実力テストや資格検定は実施したか。</p> <p>4) ①取組を行ったか。</p> <p>②就職指導は行ったか。</p> <p>③受験対策・国家試験対策は行ったか。</p> <p>5) ①校内委員会の活動は行ったか。</p> <p>②設備面は充実したか。</p>	<p>②集中力はまだまだ身につけていない。指導方法を工夫し、今後も継続した指導が必要。</p> <p>③朝学はコロナ対策の健康チェックのためできなかった。授業で課題学習は取り入れ、効果は表れている。</p> <p>④実力テストは普通科・調理科では3回、看護科本科では5回行った。専攻科Ⅰ年生では模試を5回、専攻科Ⅱ年生では模試を10回行った。資格検定は全学科で漢字検定を2回行った。調理科では調理検定、技術考査、サービス接遇検定、ふぐ取り扱い資格、食育インストラクターの各資格取得に挑戦した。</p> <p>4) ①補講や進路ガイダンス、進路説明会で取り組んだが実績は伴わなかった。今後も取り組みが必要。</p> <p>②進路ガイダンスで就職指導は行った。調理科では大手に就職できたが、普通科でも大手企業に就職できるよう努める。</p> <p>③普通科では、受験対策を補講で行った。国家試験対策は看護科専攻科に模試や弱点補強講座、国試解説授業、過去問解説を行った。看護師国家試験の合格率が71%と非常に悪かったので、原因の分析を行わなければならない。</p> <p>5) ①校内委員会や各教科で、ICT教育のより良い方法を考え、実施した。まだまだ模索中の部分もある。</p> <p>②校内WiFi等、設備面は充実した。</p>
--	---	---	---

取組み②	豊かな心を育むための取り組み	<p>①キャリア教育と人権教育の取り組み。</p> <p>②普通科在籍者への取り組み</p> <p>③看護科の臨地実習の充実</p> <p>④調理科の校外実習、インターンシップの取り組み</p>	<p>①キャリア教育と人権教育は行ったか。</p> <p>②受験及び就職対策は行ったか。</p> <p>③臨地実習の拡充と整理は行ったか。</p> <p>④校外実習は行ったか。インターンシップに積極的に取り組んだか。</p>	<p>①進路ガイダンスとしてキャリア教育を行った。人権教育は7回行い、生徒アンケートでも認識されていた。</p> <p>②受験対策は補講で行った。就職対策は進路説明会や進路ガイダンスを行い生徒の意識づけに役立った。</p> <p>③実習病院の受け入れ人数を調整、新規受け入れ病院も増やし拡充に努めたが、非常事態宣言など新型コロナ対策のため、多くの実習が校内実習となった。</p> <p>④校外実習はコロナ対策のため一部行えなかった。インターンシップはコロナ対策のため積極的に行えなかった。</p>
取組み③	学校の組織力向上の取り組み	<p>1) 学校自己診断の実施</p> <p>2) 保護者との連携</p> <p>3) 地域連携</p> <p>4) 広報活動の充実</p>	<p>1) 自己診断を行ったか。</p> <p>2) 保護者との連携をし、互いの理解度はましたか。</p> <p>3) 地域との連携はできているか。</p> <p>4) 広報活動は充実していたか。</p>	<p>1) 保護者、生徒及び教員にアンケート実施を行った。アンケート集計と考察はできた。</p> <p>2) アンケート結果にも現れているが、連携し互いの理解度が増しているとは言い難い部分もある。学校への関心がより高くなるような方法を検討し、実行することにより連携できると考える。その一環として、定期的な広報誌の発行を行った。保護者に好評だった調理科の学習成果発表会は、新型コロナ対策のため実施できなかった。普通科ミュージカルコースの学習成果発表会は動画を制作し鑑賞会を行った。</p> <p>3) 教職員が校門であいさつ運動を実行し、地域との連携を高めている。</p> <p>4) オープンキャンパスは全教職員で取り組んでいる。入試広報室も積極的に説明会参加や中学校・塾訪問を行っていて、広報活動は充実している。広報誌の発行を定期的に行った。</p>

<p>取組み④</p>	<p>教職員の資質向上を目指した体制づくり</p>	<p>1) 授業力向上に向けた具体的(研究授業・研修等)な取り組み。</p> <p>2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み。</p> <p>3) 学科間の連携、教職員間の連携</p>	<p>1) 研究授業・研修を行ったか。</p> <p>2) 学力向上と進路実現に向けた取り組みはおこなえたか。</p> <p>3) 連携はできたか。</p>	<p>1) 研究授業はできていない。今後は、研究授業を積極的に取り入れなければならない。</p> <p>2) 生徒への取り組みは行えたが、教員に対してはあまりおこなえていない。教員への進路説明会や研修会行わなければならない。</p> <p>3) 学科ごとの特性を生かしつつ、共通の行事をとおして生徒や教師が交流することによりお互い理解しているが、新型コロナ対策のため、行事がほとんど中止になり教師の交流は例年より少なかった。教職員に好評の調理科レストランは一度しか実施できなかった。今後は、コロナ禍で行事ができなくとも、交流できる方法を考えなければならない。</p>
-------------	---------------------------	---	--	---